

# おたがいさま たすけあいのある 地域社会づくりを応援

コープぎふでは、地域福祉の向上をめざして、2006年度より『福祉活動助成基金』の運用を始めました。組合員さんからお寄せいただいた福祉募金と皆で生み出した剰余金の一部を積み立て、応援を必要としている団体に役立てていただいています。

今回は2013年度に助成を受けられた、多治見市の「宅児老所 楽らく」と、美濃加茂市の「NPO法人 虹の里」さんを訪問し、地域福祉についてお話を伺いました。

※助成団体は毎年1月に募集し、コープぎふで設ける「福祉活動助成基金運営委員会」で選考し、理事会で決定します。(2014年度助成金の対象団体の募集は終了しています)

8年間での助成  
(2006年～2013年)  
**135団体**  
約**2,395万円**



一人ひとりが  
イキイキと心豊かに

コープぎふ理事長 川崎直巳

福祉募金をはじめとした福祉活動の取り組みに理解、ご協力をいただきありがとうございます。

コープぎふは、一人ひとりが地域社会の一員として大切にされ、イキイキと心豊かに暮らせる、笑顔あふれる協同の暮らしの実現を目指しています。

その取り組みの一環として、福祉活動助成基金を活用した地域の福祉団体への応援を続けています。組合員さんの中にも地域の福祉活動に携わられる方がたくさんいらっしゃり、助成が大きな力になっているとお聞きしています。今回はそのうちの二事例を紙面で報告させていただきます。

これからも、たすけあい、分かち合う協同のよさを広げ、誰もが住みよい地域になれるよう取り組みを継続発展させたいと思います。

組合員の皆様の協力をよろしくお願いいたします。

福祉募金はOCR、e-クレジットから  
通年で受け付けています

共同購入注文書(OCR用紙)の注文欄に注文番号と数量(口数)をご記入ください。インターネットで注文の方は、「注文番号」「注文」の画面から「カンパ、募金番号」と数量(口数)をご入力ください。後日、商品代金と一緒に登録口座より引き落としさせていただきます。

注文番号  
**09733** 1口 **100円**  
**09741** 1口 **1000円**  
希望の口数をご記入ください。

## 障がいをもつ方々がゆったり過ごせるスペースができました

美濃加茂市 NPO法人 **虹の里** (日中一時支援事業所 菜の花)



日中一時支援事業所 菜の花の部屋に飾ってありました

障がいをもつ方やご家族の心のゆとりになっています

今回の助成を受けて開所した「菜の花」は、陽が差し込んで暖かく、のんびりできる空間です。トイレも車椅子ごと入れるように、バリアフリーで広さも十分になっています。着替えをしたり、仮眠がとれたりするようことカーテンで仕切るスペースもあります。

ここでは何かカリキュラムがあるわけではなく、自宅と同じようにのんびり過ごします。障がいによっては、毎日付き添いが必要で目が離せず、時には煮詰まることも。ご家族も本人も気分転換が必要です。「この場所です呼吸おおくことで、お互いにより関係になれる」と思っています。

原動力はおたがいさまの心

人と人がつながり、小さな手助けが重なっ

### 【日中一時支援事業所 菜の花】

美濃加茂市には障がい者(児)を日中預かってもらえる施設がなく、たくさんのお母さんたちが困っていたことから、今回の助成金で自宅裏に増築し、日中一時支援事業所 菜の花をスタートしました。現在看護師の資格を持つ3名を含め、11名のスタッフで運営しています。

日中一時支援事業所とは、障がいを持つ方が、休日や学校または就労後の時間を過ごしたり、ご家族の就労支援や休息の時間を確保する場です。流田さん自身もご家族に障がいを持つ方がおられ、岐阜県中の施設を回られたご苦労もされたそうです。そのときの出会いや経験から、この菜の花を立ち上げられました。



## 明るく暖かいコミュニティスペースができ、利用者の方の笑顔が増えました

多治見市 NPO法人 宅児老所 楽らく



月に一度のコミュニティカフェの様子

おたがいさまの精神が根付いた生協の支援だからこそ

今回の助成金で、コミュニティスペースを増築しました。おたがいさまの精神が根付いた生協の支援だからこそ、安心して受けることができました。この「楽らく」が、地域の方のコミュニティの場であり、何かあったときの拠り所となればと思っています。現在は月に一度、コミュニティカフェを開き、スタッフの手づくりしたお弁当を地域の方とつよにしたいと思っています。日頃からつながりをつくっておくことは、将来とても大切。車に乗れなくなっても、ちょっと寄れるところがあるのは心強いです。おたがいさまの心で、これからも地域の方や、この宅児老所に来てくださる方に、楽しく過ごしていただけるサービスを提供していきたいです。

増築してゆったり過ごせるようになりまし



NPO法人 宅児老所 楽らく 代表 武田美津子さん

利用者やスタッフの人数も増え、手狭になっていましたが、南側に3畳ほどのスペースができ、ゆったりと過ごせるようになりました。大きな窓からたくさん陽が入り、とても明るく、暖かくなりました。利用者の皆さんは庭の木々やお花も楽しんでみえます。ちょうどこの先に桜並木が見えるので、春になるのが楽しみです。皆さん、快適に過ごされ、会話もはずみ、笑顔が増えました。地域のつながりができ、私たちが嬉しいです。

### 多治見市 宅児老所 楽らく

「楽らく」は、多治見市の住宅街、高齢化率が高く、一人暮らしの方が多い地域にあります。2000年介護保険制度ができ介護問題が取り上げられているころ、武田さんご両親も高齢になられ、「保険に該当しない場合はどうなるのか…」と不安になっていました。そんな中、高齢者だけでなく、子どもも、大人も皆が立ち寄れる、地域の拠り所となるような場所をつくりたいと、自ら立ち上げ、15年前に開所されました。地域の方に自宅のようにくつろいでほしいという願いで、「託す」のではなく、「宅」という字を使った「宅児老所」です。



て大きな力になることとで、誰もが住みやすい地域になることを願っています。私の原動力は、「人の前に明かりを灯せば、我が前明らかなるがごとし」、おたがいさまの心です。今、家族は独立して、別のところで暮らしています。そこでお世話になっている分、私はこちらでいろんな方の支援をしていきたいです。生協の組合員さんのお気持ちでできたこの場所で、障がいを持つ方やご家族の笑顔が増えるように支援していきたいです。



NPO法人 虹の里 理事長 流田宗子さん